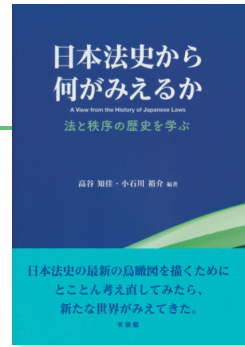


日本法史から何がみえるか

——法と秩序の歴史を学ぶ

高谷知佳 = 小石川裕介 編著

2018年3月発売 / 342頁 / 本体2700円+税
A5判 / 並製



編集
担当者
から

日本法史（法制史）の新しい学習テキストです。本書は、「法」と秩序の生成・変転を、制度のみならず社会関係も含めた広い視野から描き出します。古代における中国からの律令や「礼」思想の受容とその日本における変化、中世において様々な主体間の駆け引きによって生み出された秩序、近世における自力救済の変容と身分的秩序のあり方……。古代・中世と近世の部分は、多様なレイヤーを部分的に重ね合わせつつ、通史的に解説しています。また近現代部分は、社会学や司法政治学といった学際的な見地からも切り込み、あるいは法教育・法学の始まり・展開や、日本の「辺境」とされた地域と「内地」の相互関係に目を向けることによって、現代の法の姿を立体的に捉える視座を提供します。新しい発見や広い素養を与えてくれる、知的刺激に満ちた画期的な本に仕上がっています。法制史を専門的に学ぼうとする方々のみならず、日々「実定法漬け」の方々にも是非お勧めしたい一冊です。(M.Y.)

Index



法と秩序の歴史の鳥瞰図を描く冒険的テキスト。

日本法史への招待（佐藤雄基）

第1部 古代・中世

はじめに（佐藤雄基）

第1章 古代における法と礼（桃崎有一郎）

第2章 古代法と律令（佐藤雄基）

第3章 中世の法典——御成敗式目と分国法（佐藤雄基）

第4章 中世における法と礼（桃崎有一郎）

第5章 中世社会の秩序（高谷知佳）

第2部 近世

はじめに（谷口眞子）

第1章 近世国家の基本構造と自力救済の変容（谷口眞子）

第2章 法と礼の整備と可視化される秩序（谷口眞子）

第3章 近世社会と法（丸本由美子）

補章 過去の法へのまなざし——日本法史学史（佐藤雄基）

第3部 近現代

はじめに（小石川裕介）

第1章 近代における社会変動と法——取斂と変異（久保秀雄）

第2章 法教育と法学の始まり（小石川裕介）

第3章 帝国日本における植民地の法（岡崎まゆみ）

第4章 近現代における司法と政治（見平 典）

法史から現代の法へ（酒巻 匡） / これからの学習のために（丸本由美子） / 学習の道しるべ